

日本の未来を拓くよすが（拠）を求めて
-日本の近代化を導いた人々の思想と行動、その光と影を追う-

「西の文化」の彼方に「東の文化」を構想した人物
(Part III 芸術・音楽分野)

天心・岡倉覚三

講師： **稲賀 繁美**先生

【講演要旨】

『茶の本』（1906）出版から百年、さらに没後百年（2013）などを迎えて、近年、岡倉天心の研究はふたたび隆盛を見せてきた。その一端は、『別冊太陽・岡倉天心』（2013）の巻にも、盛り込まれている。危険な国粹的汎アジア主義の扇動者といった評価は、敗戦後の思想史研究の偏りとして一掃されたに等しく、その反対に当時の国際情勢下に天心の思想と行動を据えなおす学術的努力が成果を結ぶようになってきた。それを3点にまとめてみよう。ひとつには東洋美術という概念を西欧世界に定着させた国際的美術行政担当者としての位置づけ。ボストン美術館での活躍の背景には天心の「支那・印度」体験が無視できない。第2には、とりわけインドでの宗教刷新運動との関わり。シカゴ万国宗教議会で一躍注目をあつめたヴィヴェカーナンダ（ベンガル名ビベカノンド）との触発から、般若波羅蜜多会を日本で開催しようとした天心らの周囲の動きが、近年、再発掘されてきた。第3には『茶の本』の思想的な射程。九鬼周造らへの伝播も含め、西洋思想に対峙した東洋近代思想の動きには、今日的な意義が再認識されつつある。そこには若き日にシカゴはポール・ケイラスのオープン・コートで仏典翻訳出版事業に挺身した、大拙・鈴木貞太郎も絡まってくる。『道徳経』の「道」は近代の東西思潮の交流のなかでいかなる変貌と再解釈を遂げたのか。その思想的・造形的・宗教的意義を問いたい。

【講師略歴】

国際日本文化研究センター副所長・総合研究大学院大学教授
1957年東京生まれ、広島育ち
東京大学大学院比較文化専攻博士課程単位取得退学
パリ第7大学統一博士号取得
専門は、比較文化史、文化交渉史
主著に『接触造形論』『絵画の臨界』『絵画の東方』『絵画の黄昏』など。

日時： 2016年 **8月18日（木）18:00**～20:30

会場： **公益財団法人国際高等研究所**

参加費： **2,000円**（交流・懇談会費用を含む）

定員： **40名**（申し込みが定員を超えた場合は抽選）

申込： 「参加申込書」（裏面）によりお願いいたします

詳細： <http://www.iias.or.jp/public/goethe.html>

しめきり

8月16日（火）

必着

IIAS 公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

ゲーテの会とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

第38回

満月の夜開く
けいはんな哲学カフェ

ゲーテの会



